

ユーカリ品種「ポリアンセモス」は 斑点性病害の被害が少ない（檜葉町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 檜葉町におけるユーカリ品種の栽培特性および病害発生程度の把握（檜葉町）

担当者 佐藤優平、渡辺明

I 新技術の解説

1 要旨

檜葉町では、営農再開の花き品目としてユーカリが注目されているが、斑点性の病害により「銀世界」を中心に大幅な減収が問題となっている。このため、ユーカリ品種において栽培特性や病害耐性を把握する必要があり、現在入手可能なユーカリ品種について病害に対する品種間差を調べたところ、「ポリアンセモス」の被害が少なく、病害発生ほ場に定植しても良好な生育となった。

(1) 斑点性病害の多発ほ場において、「ポリアンセモス」「グニー」「パルブラ」「ブリッジシアナ」を定植したところ、定植1年目の発病葉率及び発病度は「ポリアンセモス」で低かった（図1）。

(2) 2023年1月30日に播種し、2023年5月16日に定植した。「ポリアンセモス」は12月時点で草丈179cm・幹径38mmとなった。「グニー」は草丈191cm・幹径35mm、「パルブラ」は草丈107cm・幹径22mm、「ブリッジシアナ」は草丈288cm・幹径39mmとなった。

2 期待される効果

(1) ユーカリ生産者の品種選定の参考となり、営農再開面積の拡大に繋がる。

3 活用上の留意点

(1) 「ポリアンセモス」については定植1年目であるため、収穫を実施していない。このため収量及び市場の評価は調査していない。

(2) 慣行の散布頻度（月2回～3回）で薬剤散布による防除を行った。

II 具体的データ等

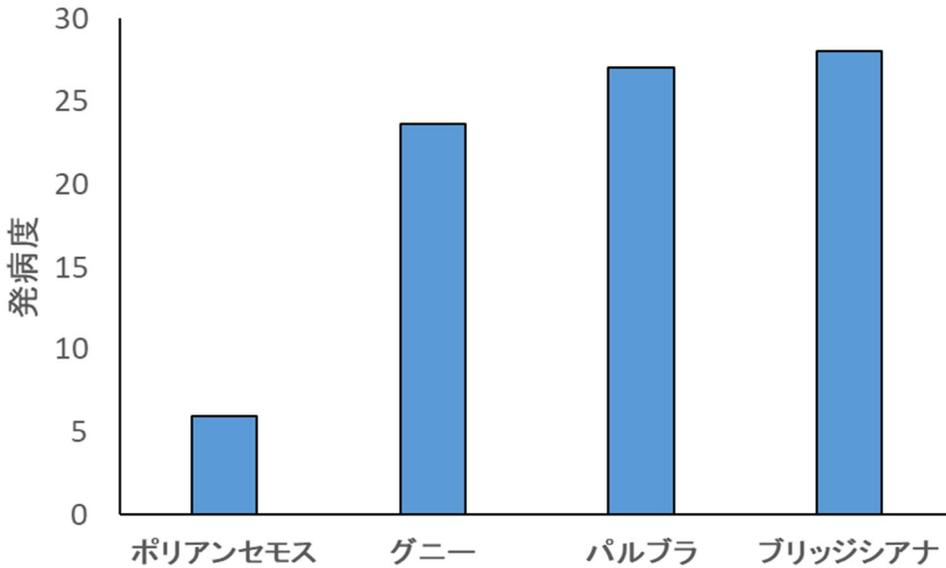


図1 現地ほ場における発病度（2023年9月20日時点）

※調査株は各品種5～8株を調査し（基本8株調査として、欠株により減少）、株当たり100葉を調査した。

※発病度については5段階で評価した。

（0:発病なし 1:病斑広がり0-5%、2:病斑広がり5-25% 3:病斑広がり25-50% 4:病斑広がり50%以上）

※発病度 = { \sum (程度別葉数 × 発病指数) / (調査葉数 × 4) } * 100

表1 各ユーカリ品種の草丈及び幹径
(2023年12月11日調査時)

品種	草丈(cm)	幹径(mm)
ポリアンセモス	179.9	38.7
グニー	191.0	35.0
パルブラ	107.0	22.7
ブリッジシアナ	288.3	39.8



図2 「ポリアンセモス」

III その他

1 執筆者

佐藤優平

2 実施期間

令和5年度

3 主な参考文献・資料

なし